

真相徹底追問
お助け!!
探偵局

題字：下河巻史選手



依頼書

ぶちかませヤマグチ!の師弟の絆が面白かったです。師弟になった時のエピソードって人それぞれですね。他にも師弟エピソードが見てみたいです。

ぶちかませジロウ!(東京都)



土屋千明(群馬)

師匠



橋本久和(群馬)

弟子



金子千穂(群馬)

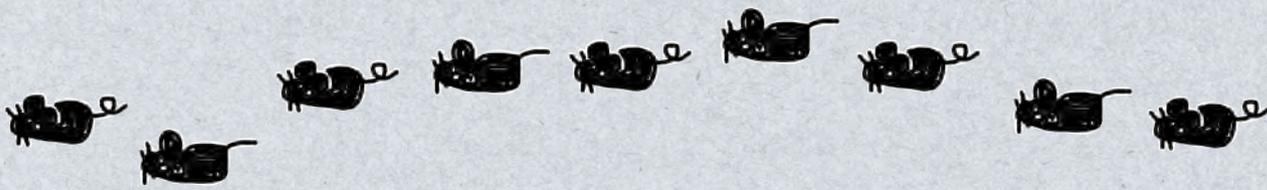
群馬支部の師弟関係は、支部長など上の選手が決めるんです。なので、弟子が師匠にお願いするということではなく、私と弟の智則は橋本久和さんの弟子になりました。当初、橋本さんは私の扱いに困ってる感じが伝わってきました。女子がいなかったの、すごく優しく接してもらいました。

で、今は私が金子千穂ちゃんの面倒を見ている。弟子を持つというのは、その子の人生を左右するから、親になるような気持ちでしたね。それまでとは行動も言動も成績も全部変わりました。最初は説明する難しさを感じましたね。言いたいことをちゃんと言語化するのに苦労しました。またデビュー当時は結構厳しいことも言いましたが、年月を経て距離感も少しずつ変わってきましたね。今は相談に乗る感じで、こちらから積極的なアドバイスすることなく、千穂ちゃんが考えたことを尊重するようにしています。

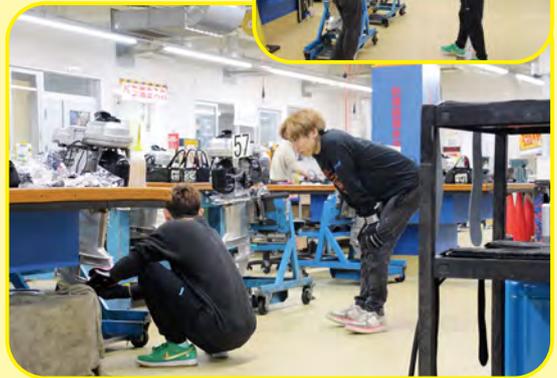
選手人生を大きく左右するといっても過言ではない師匠選び。持ちペラ制度だった頃は、支部ごとにいくつものグループがあり、そこに所属する中で師弟関係が構築されていくものだった。それがなくなった現代、若手選手の中には師匠を持たないという選択をする選手も決して珍しくなくなりました。ただそれだけに師匠につくというのは、以前にも増して特別なことになっている。そこで今回は現代の師弟関係を探ってみよう。

向井美鈴と野田彩加の師弟コンビ





師匠 佐藤翼(埼玉)



一緒に出場した関東地区選手権で尾上雅也にアドバイスする佐藤翼

個性を伸ばす言葉のかけ方

アンちゃん(宮崎安奈)は去年のダービー前に弟子になりました。弟子になりたいんだろうなあとは、なんとなく感じていたので、お願いされた時、特に驚きはしませんでした。レースと一緒にすることはほとんどないですけど、練習に来た時、明らかに元気がないように見えたから、声をかけたのがきっかけだったかな。ただ、夫婦でレーサーをやってる以上、妻の了承も必要なので、(土屋)南にも聞いてOKしました。

新弟子ができたから調子が上がった？ それは 아닙니다。そんなことでグランプリに行けるような甘いところじゃないです。

尾上雅也も見えますけど、二人に対するアドバイスは全く違いますね。アンちゃんはまだ基礎の部分、尾上は応用的な、細かい話をすることが多いですかね。その人に合った言葉のかけ方というのに気を付けています。できるだけ個性を伸ばしてあげたいので。



弟子 尾上雅也(埼玉)

ドキドキ告白タイム

昨年の10月に佐藤翼さんに弟子入りしました。練習に来ていた時に声をかけてもらって、師匠になってほしいと思ったんです。だけど、奥様も選手だし、女子選手が弟子入りしていいものかとか、断られたらどうしようとか、1年くらいずっと悩んでました。翼さんがダービー前に練習に来ていたタイミングで、告白するように唐突にお願いしました。ドキドキしましたよ。

「一緒にがんばろっか」とOKいただけたときは本当にうれしかったです。

宮崎安奈(埼玉)

弟子



すごくなっていく姿を間近で見えた

デビューして1年くらいの時、練習していたら翼さんに結構厳しいことを言われたんです。でもその言葉のおかげで成績が上がったんです。それがきっかけで「師匠になってください」とお願いしたんですけど、当時はまだ「タイトルもないし、自分のことで精いっぱい」と断られたんです。

その後、21年10月の児島周年で翼さんが優勝したんです。その後の正月戦で、翼さんから声をかけてくださって、弟子にもらえることになりました。

翼さんとはプロペラの形も違いますが、メンタル面ですごく支えてもらってます。すごくなっていく姿を間近で見えました。そういう背中を見せてもらえるのは本当にありがたいです。



黒井達矢
(埼玉)

師匠



中里昌志(埼玉)



中里優子(埼玉)



弟子

石田貴洋(埼玉)



青木蓮(埼玉)



根岸真優(埼玉)

明太子を買ってる最中に告られる

僕自身は中里昌志さん、優子さんが師匠で、弟子には石田貴洋、青木蓮、根岸真優がいます。

昌志さんとはデビュー戦から3節連続で同じあっせんになって、それだけでも運命を感じていたんですけど、目の前で優勝されて「カッコいい」ってなりました。お願いする時は、嫁さんにプロポーズするよりも緊張しました。

昌志さんには気持ちの面、優子さんには走り方やプロペラを学んで、二人のいいとこどりでやらせてもらってます。

石田が僕にとって初めての弟子なんですけど、弟子ができて恥ずかしくないレースをしたいと思うようになりましたね。その後、青木蓮も弟子になって、最近、根岸真優も加わりました。根岸は女子ですけど、昌志さんからは「他と扱いを変えるな」と言われてますし、僕自身が本を読んだりして、伝える勉強をしたりしています。

そういえば、師匠になってほしいという話をされた時、石田は普通にデビュー戦のタイミングで言われたんですけど、青木ですよ。福岡のレースが終わって、空港のお土産屋さんで明太子を買うために並んでいたら、「黒井さん、お話があるんですけど。師匠になってください」って。「今っ!？」って思いました(笑)。他の先輩も一緒だったので、あいつなりに僕が一人になるタイミングを狙っていたんでしょうけどね。

いつかはグループみんなで記念を走りたいので、切磋琢磨して頑張ります。



鈴木孝明、黒井達矢、石田貴洋。鈴木は中里昌志が師匠で、黒井とは兄弟弟子という繋がりになる



師匠を
持たない

藤田俊祐(東京)

人生を左右する師匠選び

今のところ師匠はいません。その節ごとに東京支部の先輩を中心にアドバイスをもらいながらやっています。デビューして3年半、A1級にもなれたし、行けるところまで行ってみたいという気持ちがあります。ただ、去年ヤングダービー、今年地区選と上の舞台を経験して壁を感じました。何もできずに終わった感じで…。もっと上に行くなら師匠につくのがいいとは思っているものの、人生を左右することなので、じっくり考えたいと思っています。



谷口佳蓮(香川)

師匠



森高一真(香川)

アドバイスがわかりやすい

デビューして2期目のお盆レースで落水した時にエンジン整備を手伝ってくれたんです。その時にプロペラも見てもらって、いろいろアドバイスをいただきました。それがすごくわかりやすくて、自分に合ってると思って、その期の終わり頃に師匠になってほしいとお願いしました。

レーサーとしての技術はもちろんですけど、人としてもすごく尊敬しています。私がコロナにかかったとき、いろいろ物資を集めて家まで届けてくれたんです。そりゃ惚れますよね(笑)。